

グリーントピックス

No.53

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 森林研究本部 林業試験場

皆伐で天然更新したトドマツ稚幼樹の成長を促すことに成功

グリーントピックス 49号では、トドマツ人工林内に天然更新した稚幼樹を、上木を皆伐することで育てることができるかどうかの試験を始めたことを紹介しました。今回はその後の経過をお知らせします。

道有林日高管理区の126林班51小班では、膝から腰の高さぐらいのトドマツ稚幼樹が一面に天然更新していました。平成25年2月に0.96haの小面積皆伐を行ったところ、同年5月には、伐採区の稚幼樹の葉の大部分が茶色く変色し（写真-1）、その後落葉しました。しかし、伐採後に開葉した葉は変色も落葉もせず、伐採から1年6ヶ月後には、枝先に2年分の健全な葉が着いていました（写真-2）。皆伐から2年10ヶ月後の平成27年12月には、伐採後に開葉した3年分の葉が着葉しており、一面が緑のじゅうたんのようになっていました（写真-3）。さらに枝もしくは側芽が立ち上がって上長成長を始めた個体が多く見られました（写真-4）。これらのことから、これまでの言い伝えとは異なり、林床に30cm～1mのトドマツ稚幼樹がたくさんあるトドマツ人工林では、上木を皆伐することでこれらの稚幼樹の旺盛な成長が期待できる場合もあることがわかりました。

今後は、上木を皆伐すると稚幼樹が枯れる場合と生き残る場合の条件の違いについて調査したいと考えています。林床にトドマツ稚幼樹が密生する人工林で皆伐施業を行う場合には、是非、北海道立総合研究機構林業試験場に情報提供をお願いいたします。（道東支場 中川昌彦）



写真-1 伐採区全景(平成25年5月:伐採3ヶ月後)



写真-2 着葉状況(平成26年8月:伐採1年6ヶ月後)



写真-3 伐採区全景(平成27年12月:伐採2年10ヶ月後)



写真-4 枝が立ち上がり上長成長